

第  
**1**  
章

マンション直下の  
土壌汚染事件

## 大阪アメニティ・パーク（OAP）の土壤汚染事件

この章では、西日本における代表的なマンションと言われる「大阪アメニティ・パーク」（OAP）の土壤汚染事件と、やはり大阪の代表的な巨大マンション群、「高見フローラルタウン」の土壤汚染事件を取り上げる。

いずれもその土地は、かつて日本の代表的な企業の工場が操業していた場所である。前者は企業が土壤汚染物質の排出者であることを認めていながら、その問題解決法をめぐって住民との間で熾烈な争いが続いており、後者は企業が汚染者責任についても認めずに、いまだに沈黙を守っている。

本章では、巨大集合住宅での土壤汚染問題をめぐる熾烈な争いには、どのような問題点があり、マンションの住民が陥る状態とはどのようなものであるのかを明らかにしていく。

OAPの場合は、関西における代表的な経済人やオピニオンリーダーたち多士済々が住居を構え、あるいは資産として保有している。その経済人が不良債権問題の焦点になっている巨大マンションの

土壌汚染に直面したときにどのような対応をするのか。非常に興味深い課題である。なぜならば日本の財界人たちの現在の課題は、不良債権問題をいかに処理するかにあるからだ。日本経団連は「土壌汚染政策」を打ち出しており、リストラの資金を得るために開発業者に遊休土地を販売してしまいたい、というのが基本的な立場だ。だが、いざどこかの企業がそのような目的で遊休土地を売って建てた高額レジデンスを、たまたま自分が優良物件と信じて投資したのに、そこが企業の操業の結果として土壌汚染にまみれていたとしたら……。

この章は本書における最大の目玉である。

私はOAP事件について、汚染者である企業や行政、学者がどのような対応をするのかということ徹底的に取材し、詳細に描いた。その一つひとつの局面が、極めて興味深い動態を示している。その動態をていねいに読み解いていけば、土壌汚染リスクに直面した企業の対応、また今後のマンション居住者として、あるいはこれからマンションを購入する際の指針となるだろう。

もう一つ私が提唱したいのは、「OAP問題解決の条件」である。どんなに出口のない袋小路に入り込み、行き詰まっても、居住者、企業、行政が最悪の条件のなかの最善の解決策を協働で追い求めるならば、必ず光明を見出すことができる。それが私の信条だ。

### 関西随一の地位の象徴……

三菱マテリアルや三菱地所などが建設販売した、関西一の超高級マンションと帝国ホテルなど一流テナントを含む高級商業施設、大阪アメニティ・パーク（以下OAP。大阪市北区天満橋）が億ションの



▲宮崎等氏

名にふさわしからざる土壤汚染問題で大揺れに揺れている。

ＯＡＰ土壤汚染対策協議会代表の宮崎等ひとしが会長をしている島産業のオフィスは、ＯＡＰレジデント棟一三〇二号、つまり一三階二号室である。

その応接室で宮崎は怒りをあらわに語り始めた。

「なぜ三菱マテリアル、三菱地所はこのＯＡＰマンションを販売するときに土壤汚染があると説明しなかったのか？ そのことは、とおの昔に彼らにはわかって

いたにもかかわらず……」

東側は淀川に面し、眼下の公園からガラス張りの白い観光船が発着する。南には造幣局の古めかしい建造物が……、その向こうに、大阪城と大阪城公園が見える。南西部は梅田から難波へと続く大阪のメインストリート・御堂筋、西には梅田周辺から遠くは六甲の山々が……。宮崎はこのオフィスと住居を購入する際に両方で多額の資金を要した。

「この土壤汚染事件で資産価値が恐ろしいほどダウンした」と宮崎は苦笑いする。東館、西館合計で五一八戸という巨大なマンション。第一次と第二次の分譲価格を見ると二五階の一億四七三二万円別の価格表を見ると、最高価格が一億五〇〇〇万円。七階の販売価格の平均が約九〇〇〇万円弱である。文字通りの「億ション」だ。



▲大阪アメニティ・パーク全景。背後の川は淀川（大川）



▲OAPレジデント棟のロビー

▲OAPビジネスタワー。超一流企業群がこのなかに入っている。

住民に聞くと、三億円レベルの高額ルームが一〇棟はあるという。そこには、軒並み関西のトップレベルの財界人が入居しているのである。だが今をときめくステータスシンボルの億ション住民が、土壤汚染問題の襲来によって、不安と怒りに追いやられ、勝ち組気分は一挙に暗転した。

### 地下駐車場の不安

OAPの現場を歩いた。超高層マンションやそびえたつ商業施設の下の緑の多い淀川沿いの公園を歩いていると、自分が巨人の国に紛れ込んだような気分になる。昼時は夫人たちが楽しげに芝生でランチを楽しんでいる。子犬を遊ばせながら夫人たちがおしゃべりに夢中になっている。

その芝生の下が、毒性物質であるセレンやヒ素に汚染されているという現実を忘れさせるひとときである。マンションの地下駐車場に入った。さすがに超高級マンションの駐車場は広い。折から駐車場に入ってきて車を止めたばかりのT・R夫人に直接話を聞いた。夫人は私に淀川に近い駐車場の壁を指差した（七ページ写真）。

「せっかくねえ。ここに入ってほっとしたところでしたのに、土壤汚染の話が降って湧いてきましたでしょう。有害物質は怖いし、病気も気になりますし、財産価値は下がるし……とてもいやな思いをしています」

ガンを患っている住民もいる。病気を気にする住民も多い。彼女は駐車場の通路の突き当たりの壁を指差した。

「雨が降るときはあそこの壁のひびから水が漏れ出します。流れた水はこの溝から集水管を通って



▲地下駐車場の壁。雨が降ると有害物質が流れ出る

浄化槽に入るんです。あの壁の向こうの土壌も、この下も汚染の激しい箇所です。だから怖いんです」  
セレンやヒ素が日本で起こした諸事件を知れば住民が怖がるのも当然である。この壁の背後には後に明らかにされる驚異的な高濃度の有害物質が隠蔽されていたのである。

三菱マテリアルの前身である三菱金属鉱業大阪製錬所というのはどういう工場だったのだろうか？

### 元三菱金属鉱業従業員の話

一九六〇年初めから一九七〇年初めまで同製錬所に勤めた元従業員のSさんは言う。

「当時、私は精金工場にいました。この製錬所は銅を精錬するのが主な仕事です。なかに金・銀・パラジウムなどが含まれている鉱石を輸入してきてインゴット（純粋な塊）にする。排水タンクで中和され浄化された水が流される。たまに汚染された水が流されることもありました。ほとんどそういうことは

### 三菱金属鉱業（現・三菱マテリアル）旧大阪製錬所の工場配置

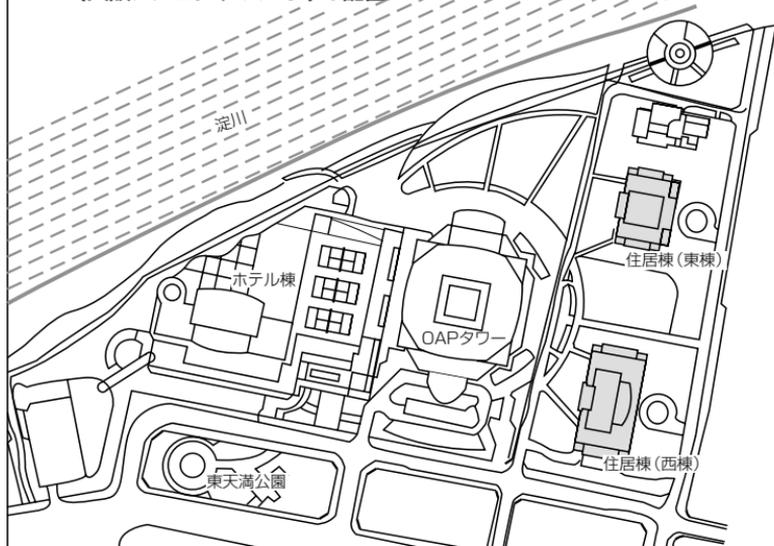
- 工程上、ヒ素が生成された場所
- ☆ 工程上、セレンが生成された場所



なかったですが、私がいるとき一回そういうことがありました。セレンを溶びて失明した人もいます。焼却炉で不純物のセレンなどを飛ばす。その煙にセレンが一定量入っています。だからそれをダクトから別のボックスで受け取ってセレン工場に送ってろ過する。言わばセレンの再生工程です。だから作業員はゴーグル（めがね）とマスクで防護して作業する。暑いからめがねを外して作業する人もなかにはいます。セレンだけを取り出す作業もあります。そのときにセレンが目に入ったら一撃、いっぺんで失明します」

彼が私が見る工場配置図を見ながら説明した。「三菱金属鉱業大阪製錬所の製造の流れを言いますと、香川県直島（豊島事件の不法投棄された産業廃棄物の処理を行なっている三菱マテリアルの最大の製錬所のある瀬戸内海の島）から板状のものを船で持ってきます。板状のものは分銅工場で電気

## OAP(大阪アメニティ・パーク)の配置



分解され、そのなかの一部が金・銀などで精金工場に送られるのです」

「精金工場でセレンを取り出し、セレン工場に送ってセレンという製品をつくり出すのです。コピー機などに使う真っ黒い仁丹のような粒子をつくり出しました」

セレン工場も精金工場もまさに現在OAPの住宅棟が建てられている真下である。住宅棟は西棟と東棟がある。OAP西棟が旧精金工場跡地、保全工場跡地にかぶさり、OAP東棟が旧セレン工場跡地、分銅工場跡地にかぶさっている。OAPの円形のオフィス棟は型銅工場、脱銅工場、特品工場、などの上に建てられている。型銅工場は銅線（電線）をつくるこの製錬所の主な工場であった。帝国ホテルなどホテル棟は型銅工場、圧延機などがあったSCR工場の上に建設された。

「精金でいえばセレンを飛ばした後に残った分

をもつと高温の焔に入れるので、お湯のような状態になっていますから比重で下に銀などが沈殿し、上に「からみ」という残り滓が出ます。「からみ」を抜いてすり鉢状のものに入れて、冷えて固まった瓦状にしたものをリフトでセレン工場・保全工場・精工工場などの南端の広場に積み上げ、大きな鉄球ハンマーで碎きます。これを鉍滓といいます」

### 多くの死者を出したヒ素公害事件

医療法人南労会付属環境監視研究所の中地重晴主任研究員はセレンとヒ素の公害について次のように語った。

「ヒ素は森永ヒ素ミルク中毒事件で有名です」

一九五五年、森永乳業の粉ミルクを飲んだ乳児一万二二三一名が発熱、吐き気、下痢、脱毛、腸部膨満、黄疸、皮膚色素沈着を起こし、一三〇名が死んだ。

粉ミルクを熱すると豆腐のように固まってしまう。そこで固まるのを防ぐために通常は高価な食用の薬剤を使うが、森永はコストダウンのために安い工業用の第二磷酸ソーダを使った。そのなかにヒ素化合物である亜ヒ酸ソーダが不純物として混じっていた。乳児たちはヒ素を飲まされたわけだ。その結果森永ヒ素ミルク事件が発生した。

中地はさらに言った。

「閉鎖された製錬所、休山や廃鉱などで鉍毒公害が発生したなかでは、宮崎県高千穂町土呂久地区で起こった土呂久鉍毒事件が有名です」